

平成 29 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

平成 29 年 8 月 2 日
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 Peacock leaf spot (和名無し)
病原菌学名 *Spilocaea oleaginea* (糸状菌の一種)
- 2 発生作物 オリーブ
- 3 発生経過及び状況
 - (1) 平成 29 年 5 月に、県西部地域のオリーブ果実生産園で、葉に黄化を伴う斑点症状が発生し、静岡県病害虫防除所に診断依頼があった。同症状の部位において糸状菌の胞子が確認されたため、名古屋植物防疫所に同定を依頼した結果、わが国では未確認の Peacock leaf spot (和名無し) であると診断された。
 - (2) 名古屋植物防疫所と合同で、発生が確認された園地において調査を行ったところ、当該生産者の 2 ほ場で本病原菌の感染が疑われる症状が確認された。発生が確認された園地では、いずれもまん延防止に資する防除対策が実施されている。
- 4 分布
本病は、ヨーロッパや北米、南米、オーストラリア、ニュージーランド等で発生している。
- 5 病徴及び被害
葉表面上に暗緑色～黒色の円形病斑 (一部黄色ハローを伴った病斑) を多数生じる (図 1、2)。海外の文献では本症状は主に葉に生じ、茎や果実にも病斑が認められることもある。重症な場合は、落葉、新梢枯れ、落花などの被害を生じ、10～20%の減収となることが報告されている。
- 6 宿主植物
宿主はオリーブのみである。なお、本病の発生園では複数品種が栽培されているが、発生は一部の品種に限られる。
- 7 発生生態及び伝搬方法
降雨による水滴の飛散により、発病部位から病原菌が感染拡大すると考えられる。雨が多いと発病が促進される。また、海外の文献では、ウスイロチャタテムシ科の一種 (*Ectopsocus briggsi* : 国内で広く分布する普通種) を介して伝染することが報告されている。
- 8 防除対策
 - (1) 本病及び媒介虫に対する登録農薬はないため、耕種的防除が基本となる。
 - (2) 発病部は除去し、密閉したビニール袋内で腐らせる等の処置を行う。
 - (3) 発病樹や感染が疑われる樹の管理作業後は、使用した器具を必ずケミク

ロン G 等により消毒する。

(4) 雨の多い時期や雨天時の管理作業は、感染を助長するため避ける。

9 その他

本病が疑われる症状が確認された場合は、速やかに病虫害防除所に連絡する。



図1 葉表面上の暗緑色～黒色の円形病斑



図2 円形病斑を生じた葉

問い合わせ先： 静岡県病虫害防除所 TEL. 0538-36-1543